

突発性発疹

突発性発疹について

多くの子が生後6ヶ月から1歳くらい、遅くても2〜3歳くらいまでにかかる発熱と発疹がみられる病気で、初めての発熱が突発性発疹ということがよくあります。ヒトヘルペスウイルス6型というウイルスによって起こる感染症で、唾液などを介してうつります。

ヒトヘルペスウイルス7型でも同じような症状がみられ、

「突発性発疹に2度なる」こともあります。

これらウイルスに感染しても症状の出ないこともあり（ふけんせい不顕性感染）、「一度も突発性発疹にならない」子どももいます。

予防接種などではなく、一度感染することで免疫ができます。

予
防
接
種
な
ど
は
あ
り
ま
せ
ん



合併症は？

- 高熱に伴って、熱性けいれんを起こすことがあります。
- ごくまれに脳炎・脳症になることがあり、けいれんが長引いたり、呼びかけてもぼんやりしているときは要注意です。

治療法は？

- 突発性発疹の特別な治療はなく、自然に治る病気です。
- 発熱時の一般的な対症療法を行います。
- 水分補給が大切です。



どんな症状？

- 主な症状は、発熱と発疹です。
 - 典型的には、突然の高熱（39～40度）が3～4日続いて、熱が下がると同時に全身に赤い発疹があらわれます。
 - 発疹はかゆみを伴わず、2～3日くらいで自然に消えて跡も残りません。
 - 咳や鼻水といった感冒症状はほとんどみられませんが、下痢を伴うことがあります。
 - 高熱の割に元気なことが多いですが、中にはぐったりし水分もとれなくなることもあります。
- ※発熱の後に発疹が出て初めて「突発性発疹」の診断がつきます。
- 熱が下がって治ったあとも、数日間機嫌が悪いことがあります。
 - 解熱後の予防接種は1～2週間あけてください。

